

未来のために

一年 四組

八番

兼謝名

希実

緑の葉がおいしかり、汗ばむ季節になると
 私は戦争体験者だった曾祖父の二ことを思ひ出
 します。曾祖父はこの時期になると、悲しそ
 うな表情で戦争中の出来ごとを話してくれま
 した。曾祖父は大切な友人を失った事、けが
 をした事、思ひだすだけでもつらい時の二こ
 を私達に話してくれました。

今から七十五年前人々の幸せと笑顔が二の

沖縄から消え去りました。とても残酷で恐し
 い戦争のせいで。子供達の笑い声は泣き声と
 叫び声に変わり、青く輝いていた海は血で赤
 く染まり、現実とは思えなほど恐ろしさが
 たそうです。当時、私の曾祖父は、沖縄県立
 沖縄工業高等学校一年生でしたが、ある日突
 然学校へ着くと戦争の通信隊として参戦させ
 られたたそうです。長く続く戦争中に爆弾の破
 片が足に刺さり、気を失い倒れて二三日
 を見つけられ、収容所に連れて行かれたそう

ひす。たくさんの方が犠牲になり、残酷な様子を見た曾祖父は恐怖でいっぱいだった。たったろうかな、と思いました。

私は戦争体験者ではありませんが、曾祖父が伝えたかった事、それはたくさんの方の尊い命が奪われたという事です。そして、たくさんの方が心に大きな傷を負ったという事です。現在、世界中で新型コロナウイルス感染症による大きな問題が起きています。自粛生活が続く学校にも行けません。友達とも会えな

自宅に自粛するのは、大変で苦しむと感じていました。しかし、戦争中は、防空壕の中で電気も水も食料も無い避難生活が何ヵ月も続いたことを考えると、世界中の人達を守るために行われていた自粛生活に不満を思っている自分が恥かしくなりました。

社会は人によってくられ、人で動かされ、入で繋がっているのです。戦争をおこなったのが人間なら、平和を築けるのも人間なのだと思います。

平和は当たり前ではありません。なぜなら今の平和は七十五年前の多くの犠牲のもとにあるものだからです。

生まれこいた時から平和に過ごしている私達。平和だからこそ勉強ができ、食べ物があり、何不自由なく生きていれるのです。この平和は当たり前前ではなく、この平和に感謝するべきだと私は思います。

曾祖父は二年前に七くなり、もう話を聞くことができません。しかし、曾祖父が生きることからこそ、祖母、母、私が生まれ命がけになったのです。

私達は戦争を知りません。戦争を体験した人はほとんど減っています。その中で私達は今何が出来るのか、平和を守るために何をすべきなのか、それは、多くの命を奪った戦争を絶対に忘れない、という事です。

これから、話を聞けなくなっても、私達が語り断つことができません。そして、七十五年

前の人々が願った平和を未来へひきつりてい
かなければなりません。曾祖父が残してくれ
た記憶を私達がひきつぎます。

世界中の人達に戦争のおそろしさを忘れず
力を合わせて平和を守っていきます。